

お木曳の版画

飯田 良樹

昨年（2025年）の5月17日に「令和のお木曳フェスタ」が外宮北門広場で開かれた。これは2026年から第63回神宮式年遷宮（2033年）のための御用材を運ぶ行事を市民総出で盛り上げようとする決起集会であった。

「お木曳」とは、社殿を建てる御用材を山から切り出して保管する木場から宮城内まで奉曳することで、外宮は陸路を奉曳するので「陸曳」、内宮は五十鈴川を奉曳するので「川曳」と呼ばれている。

御用材は、御杣山に定められた山から伐り出され、当該地域に運搬される。ところが、伊勢近辺の山地から良材が伐り尽くされた近世期には、概ね木曾山が御杣山とされており、ここから筏を組み木曾川に流して、伊勢湾を経由し大湊の貯木場に納められた。市中でその御用材を奉曳することは、中世には行われていたことが知られ、用材の運搬という神領民の勤労奉仕の形をとっていた。近世初期から、次第に、華美な祭礼へと変容していったので、江戸中期には御木曳への山田奉行の取り締まりがあった。しかし、江戸時代最後の文久の御木曳では、以前のような華やかさが戻ってきた。この後、慶応三年（一八六七）の大政奉還とともに山田奉行が廃止され、その後の事務は神祇官が引き継ぎ、造宮の実務は度会県に移管されることになった。この遷宮は新政府の内務省が管轄し、国費から造宮費が支出されたことに伴い、御木曳の奉仕も不要となったが、旧神領民が三重県令に請願を繰り返し、市民による御木曳行事の復活が実現した。（以上、伊勢市史より要約する。）

現在の「川曳」は三重県営体育館裏から内宮境内までの約1 kmの五十鈴川を曳く。「陸曳」は奉曳車（ほうえいしゃ）に積まれ、宮川の河畔から伊勢市内を通り、外宮境内まで曳かれるのが一般的。

奉曳団の構成は神領地を近世以来の区分で形成

される。（伊勢市史より）

内宮領

宇治六郷

上二郷

岩井田郷（館町）

浦田郷（今在家、中之切、浦田）

下四郷

中村郷（中村、中之町、桜木）

楠部郷（楠部、古市、久世戸、中之町、桜木）

鹿海郷（渡会）

朝熊郷（朝熊、一字田、松下）

浜二郷

二見二郷（溝口、山田原、三津、江）

外宮領

山田十二郷

一 中島

二 辻久瑠 二俣 浦口（上三郷）

三 上中之郷（現常盤）

四 下中乃郷（現宮町）

五 八日市場

六 曾弥

七 大世古

八 一志久保（現一志）

九 宮後西河原

十 田中中世古（現本町）

十一 下馬所前野

十二 岡本 岩淵 吹上（下三郷）

中島 辻久瑠、二俣 浦口を一郷とし十二郷以外の河崎、船江、妙見（現尾上）を一郷として十二郷

浜五郷

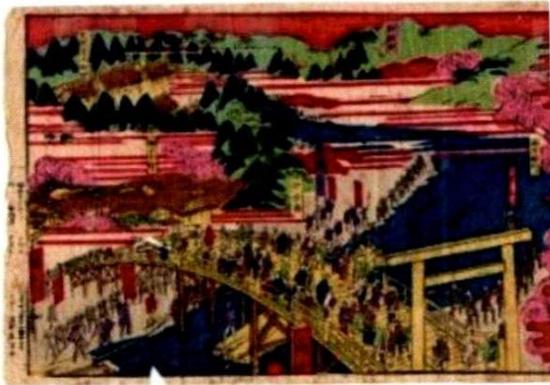
一 神社 馬瀬 竹ヶ鼻

二 通

三 一色

四 黒瀬 阿竹

五 小木 田尻 下野 新開



左部分を拡大



右部分を拡大

明治36年の「伊勢両宮御木曳之図」。伊勢河崎町の浅井庄治郎が出版。一枚に川曳と陸曳が収められていて、左が川曳で神苑会により壊される前の館町が描かれている。久世戸、中之町、桜木町の旗もみえる。右が陸曳であるが町名の旗は描かれていない。



「明治36年両宮御造營奉曳式之図」。版元は記載されていない。右半分には御木曳の由来「両宮御杣山之記」（はじめは神路山であったが、その後答志島、三河設楽郡、美濃、木曾山と変わった経

緯）と「奉曳所役の記事」（奉曳を担当する両宮の市町村名と参宮鉄道山田ステーションから伊勢名所までの距離）が刷られている。左は二見浦、川曳、陸曳の版画。

なお、大正までは、御曳者は長め法被を着用し、昭和になると白衣を、最近は趣向を凝らした色合いの法被を着用している



大正11年の絵葉書



昭和17年の絵葉書



桜木町奉曳団【内宮】



二軒茶屋奉曳団【内宮】



宇治奉曳団【内宮】



五十鈴ヶ丘奉曳団【内宮】



桜が丘奉曳団【内宮】



伊勢六市奉曳団【外宮】

「令和のお木曳」誌上はっぴ図鑑役曳（第62回遷宮）

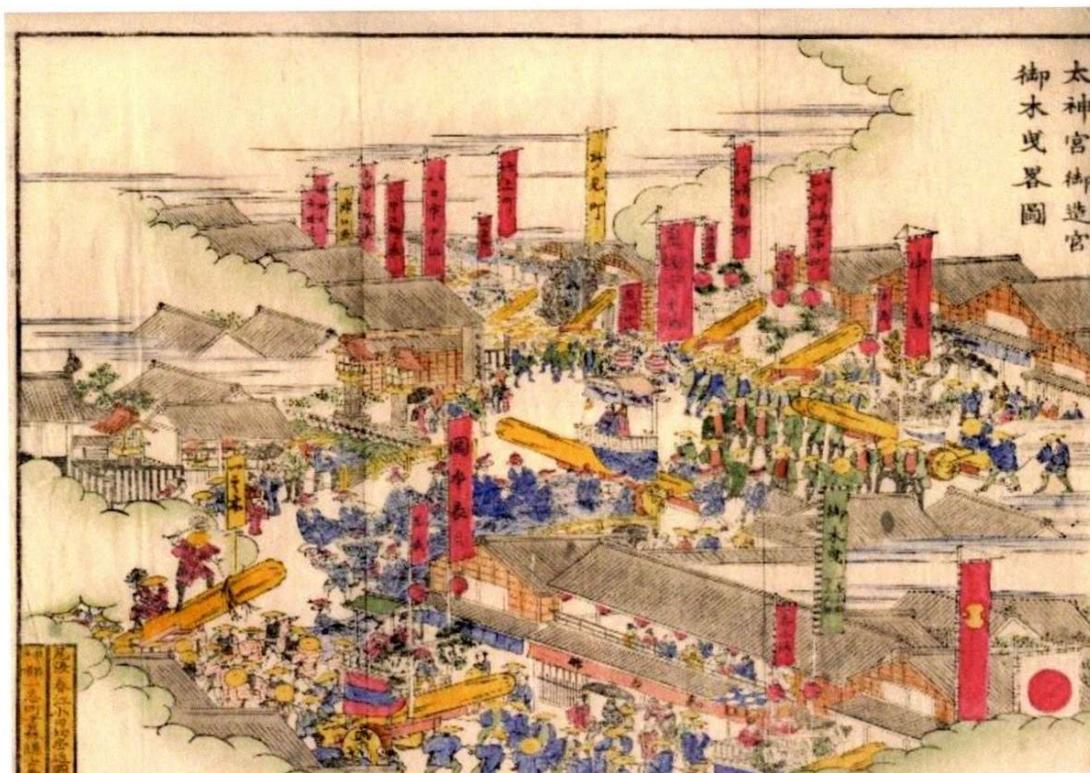
令和8年（第1次）のお木曳行事 奉曳日程

第63回神宮式年遷宮 令和8年 お木曳行事(第1次) 奉曳日程【予定】		
奉曳日	奉曳学区	奉曳場
5月9日(土)	中島	出雲町、中島、徳川山、辻久留町
5月10日(日)	中島	小川町、宮川町、西口町、京町、二保町
5月16日(土)	早修	常盤仲町、常盤第一、常盤西世古、宮町、浦口町
5月17日(日)	有輪・宮沼	宮沼連合、河崎南側、河崎旭通合併、河崎六ヶ町、神久社、船江
5月23日(土)	浜郷・小保	一色町、通町、黒瀬町、小保町
5月24日(日)	神社・大湊	小木町、黒瀬町、神社郷、大湊
5月30日(土)	御籠	新堀、生中島、下長屋、上長屋、高向
5月31日(日)	豊浜・明倫・北浜	磯町【内宮へ陸曳】 岩浜町、岡本町、吹上町、尾上町、北浜連合
6月6日(土)	城田・二見	川城町、荘、西、今一色
6月7日(日)	雲山・修道・厚生	前山町、豊栄会、徳町、豊後町、宮後
6月13日(土)	厚生	一志町、八日市場町、本町、大世古町、一之木町
奉曳日	奉曳学区	奉曳場
7月25日(土)	二見	松下、江、茶屋、三津、山田原・溝口合併、光の街
7月26日(日)	宇治・二軒茶屋	宇治、二軒茶屋
8月1日(土)	四郷	蘆海町、一宇田町合併、柳部町、中村町、朝熊町
8月2日(日)	修道・大湊	桜木町、桜が丘、中之町、五十鈴ヶ丘、古市、大湊

「令和のお木曳 第5号」伊勢御遷宮委員会より第2次お木曳行事は令和9年に行われます。

もっと詳細にお木曳について、知りたい方は
「伊勢のお木曳き行事」『民族資料選集 4』文

化庁文化財保護部編集 財団法人国土地理協会発
行を三重県立図書館で見てください。



文久2年の「太神宮御造宮御木曳畧図」



明治36年の「伊勢両宮御造宮御木曳之圖」